



仏気象界の重鎮
R. Sadourny

今回は、最近躍進著しい仏気象界を率いている観のある、Laboratoire de Météorologie Dynamique の director である、R. Sadourny に話を聞きました。

問：まず経歴を聞かせて下さい。

—1961年に、パリ大学を卒業しました。現在は、13も大学がありますが、当時は、1つでした。数学科を卒業しました。Ecole Normal Superior の学生であったので、教師となる試験を受けて、Ecole Normal Superior に残りました。1965年、UCLA へ行き、Arakawa と Mintz と大循環の仕事をしました。それから、ずっと LMD にいます。

問：学位は何時なのですか？

—仏では、その当時は、古い学位といって Ph. D より上の基準の学位システムをとっていましたので、1972年にとりました。今では、新しい学位システムに変わり、大体、Ph. D レベルです。

問：どうして、気象学を選んだのですか？

—偶然です。偶然、P. Morel と知り会いました。その時、P. Morel は、仏に、大循環の modelling group を作るべく精力的に活動していました(65年頃)。数値モデリングを自然に適用することは、非常に面白そうに思えましたので、参加することになりました。それで、UCLA に、大循環モデルの勉強に行ったのです。

問：今、どんなことに興味がありますか？

—non-linear dynamics と、climate dynamics です。その他、LMD の活動内容としては、①衛星画像の解

析、②衛星の data の retrieval、③ERB 関連の仕事、(特に、ERB-project が途中空白期間が出来るので、測器を開発して、ソ連の Meteor に積み込む計画を追求しています)、④CO₂ ライダーの開発(これは、LAWS 関連です)、⑤熱帯気象、⑥大気大循環、及び気候のモデリング、⑦乱流、及び、non-linear dynamics そして、⑧データ同化作用、などです。

問：計算機は、何を使用しているのですか？

—CRAY-2 です。CNRS に属する全ての研究者が、この CRAY-2 を使用しています。

問：気象局との関係は、どうですか？

—種々の側面で協力をしています。例えば、データ同化作用では、気象局や、ECMWF と、retrieval の問題でも協力しています。

問：就職の問題はどうですか？ LMD で Ph. D を取った学生は、気象局へゆけますか？

—なかなかむつかしいですね。気象局は、独自の training school を持っており、学部学生を集めて、自分達で養成しようとする傾向にありますから。

問：将来の方向はどのように考えていますか？

—LMD の将来方向は、GEWEX を中心に考えています。やはり、water と energy cycle が中心の様になります。これを、modelling と観測の両面から取り組んでゆこうとしています。

問：観測というのは、衛星観測のことですか？

—そうです。あくまでも、我々は Largescale の water and energy cycle に興味があります。特に、衛星搭載の lidar を開発して、風を測定したり、水蒸気を観測したいと思っています。

問：LMD の大きさはどんなものですか？

—permanent な研究者が約20、事務及び、技官が40、教職が7、そして、学生を併わせて、100名程度の規模です。

問：日本の気象学界についての印象は？

—アメリカの日本人は良く知っていますが、日本については、二度しか行ったことはないし、良く知りませんが、最近、活発になって来た印象を受けています。とにかく従来は、非常に交流が不足していたように思います。もっと、良く知り会うことが必要でしょう。

問：フランスの気象学は、発展しつつあるところですか？

—そうです。フランスの気象学は、P. Morel が始め

(P. 95 へつづく)

また接点逆転層より高い測定地点と地上地点との相関は全体に低く特に夜間は低い値となる。

3. 時間帯別の平均風速についてみると、地上の測定点については夜間は日中より小さな値となる。しかし、山頂など接地逆転層の影響を受けない高所では萩野谷ら(1984)が示したと同様、夜間の方が高い風速値を示した。

4. 相関係数を用いたクラスター分析の結果、筑波山との位置関係で測定点のグループ分けができた。つまり山体の南西、北西、東、および高所のグループに分類された。

長期観測に際し、測定場所を快く貸してくださった、真壁町立桃山中学校、紫尾小学校、八郷町立小幡小学校、芦穂小学校の校長先生方、さらに、筑波山ユースホステ

ル管理事務所長の各位に謝意を表わします。

文 献

北林興二, 吉門 洋, 近藤裕昭, 横山長之, 1986 a: 複雑地形上の気流の観測(6), 日本気象学会秋季大会予稿集, 98.
 _____, 1987: 複雑地形上の気流の観測(7), 日本気象学会秋季大会予稿集, 93.
 _____, 1986 b: 複雑地形上の安定成層気流の観測と風洞実験, 公害, 21, 53-63.
 萩野谷成徳, 近藤純正, 森 洋介, 1984: 山岳や谷あいの地上風速に及ぼす地形の影響, 天気, 31, 497-505.
 吉野正敏, 1978: 気候学, 大明堂.

日本気象学会平成元年度春季大会参加申込みおよび参加費等の送金について

日本気象学会春季大会事務局

平成元年5月24~26日に気象庁本庁において開催される日本気象学会春季大会への参加申込みおよび参加費、懇親会費の納入は、会場受付における混雑を防止するため、原則として郵便振替による事前申込み(送金)とすることにしましたので、趣旨ご理解の上、下記によりお申し込みくださるよう会員各位のご協力をお願いします。

記

申込方法 必ず2月号に挿入してある払込用紙を使用し、必要事項を記入(裏面の通信欄もお忘れなく)の上、最寄りの郵便局窓口にお払い込んで下さい。(払込料金は不要)。

払込期限 平成元年5月8日(以後の払い込みは行き違いの原因になるのでご遠慮願います)。
 受領証 郵便窓口で発行する「郵便振替払込金受領証(払込票の写し)」を大会当日受付に提示していただくので、大切に保存し、当日必ず持参して下さい。

大会参加費	会 員	1,000円
	学生会員	500円
	一 般	1,500円
	懇親会費	4,000円

(シンポジウムのテーマは「オゾン層の科学—現状と課題」です)

(P. 82 からつづく)

る前までは、皆無といっても良いような状況でした。それが、今日あるようになって来たのです。今や、発展期にあると言えると思います。

老舗、英米に対して、新興著しい、仏(大陸諸国)、という図式が浮かびます。1988年3月20~25日に開かれた Bologna の欧州地球科学連合(EGU)の総会に対し

て、欧州の大陸諸国の気象学者は熱意を持って、一つの契機としようとしているのに対し、ECMWF で会った英国の連中は、「ひどいスケジュールだ、運営がなっていない、等々」文句を言っていましたから。

ともあれ、P. Morel を帝王に、Sadourny を重鎮にいたっていて、躍進し始めた新興フランスは、典型的な中央集権国家であり、又もともと欧州の覇権を自負している国柄を考えると、今後の展開は興味のあるところだ。